看護における「関係性」とは何かー精神科訪問看護の実践からー

○都築 歩美

株式会社円グループ 訪問看護ステーション卵

1. 企画の背景・目的

精神科看護において、患者 - 看護師関係は非常に重要な意味を持つといわれている。Peplau (1952) が看護を「有意義な、治療的な、対人プロセスである」と述べているように、看護師は患者、利用者(以下、当事者と記載)との関わりや対話のプロセスを通して彼らの思いや体験に心を寄せ、対象理解を深めて援助関係を構築していくものと考えている。そのプロセスの中で鍵となる重要な概念が「関係性」である。

精神科看護師は日常的なケアの場面で当事者の感情 反応に直面することが多い。看護師の感情反応は提供 するケアや関わりの質に大きな影響を与えるものであ るが、関わりのプロセスで感情が揺さぶられる場面も 多くある。さらに、時には彼らに対して否定的感情を 強めたり無力感や陰性感情が惹起されたりして、対応 困難感を味わうこともある。

これらを踏まえて「関係性」について検討を深めていくことは、看護師の感情体験やそれらに対する投げ返しなどにも視点を向けることにつながり、看護介入にも貢献できると考える。「関係性」とは人と人との相互作用によって発展し、育まれる概念である。「関係性」について検討を深めることは看護師にとっては普段実践しているケアに新たな意味が見出され、支援の原動力になるはずだ。また、当事者のリカバリープロセスにおいても看護師との関係は非常に重要な意味を持つ。

本企画の目的は、「関係性」の形成とは何か、当事者のリカバリープロセスに寄与する要素は何かを検討し、ケアや関わりの質を向上させ、援助関係の発展の一助とすることである。

2. 企画内容

本企画は、訪問看護における関わりの場面を通じて

培ってきた「関係性」について、当事者及びその担当 看護師、それぞれの立場から体験や意見を述べること を中心とする。随所に参加者同士の意見交換の時間を 設け、参加者同士や発表者それぞれが捉える「関係 性」についても共有したいと考えている。

当事者は、担当看護師との出会いから現在に至るまでの担当看護師への思いの変化について述べる。その 過程の中で生まれた「関係性」についての考えや、自 身の支援者に求めたいことについても述べていきたい。

担当看護師は、受け持ち開始当初から現在に至るまでに経験した様々な出来事を通じて、「関係性」の形成や発展に影響を与えた場面をとりあげる。自身の思いや相手とのずれ、喧嘩や行き違いが生じた要因を探りながら、自身が捉える「関係性」について見解を述べていきたい。

参加者においては、臨床看護師や当事者はもちろん、研究者や教育関係機関の所属者、学生など幅広い属性をもった方々の参加を歓迎したい。また、随所に用意する意見交換の時間を活用し、私たちの体験や自身の臨床体験を通じて得られた「関係性」についての知見を深め、自身や組織の看護の質の向上の一助となる機会を提供したい。

3. 本企画の新規性

本企画の新規性は、当事者と看護師が双方の立場から関係性について検討する点にある。特に、当事者が登壇し自らの経験に基づいて「関係性」について意見を述べることや、自らのリカバリーについて語る機会を設けることは、当企画の新規性であるといえよう。

4. 倫理的配慮

当事者が登壇するため、参加者には個人情報の漏洩 等には十分な配慮を求めることとする。本企画に際 し、開示すべき利益相反関係にある企業等はない。